

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいの実クランベリー		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 24日	～	令和7年 11月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 15日	～	令和7年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	限られたスペースで利用者様へのケアを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・バギーや荷物の置き場所の工夫している ・日々の利用者人数や状態に応じて、“今日の配置案”を朝の段階で決める ・フロアマットの配置を固定化し、基本レイアウトを作って毎回の検討時間の短縮 ・点滴台ではなく天吊り型にして対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の負担を減らし、ある程度の判断を標準化する ・チャットツールにも「今日の配置案」を簡易投稿し、勤務時間がずれるスタッフにも共有 ・前日のうちに「明日の利用者状況の予測」をまとめ、朝の判断をスムーズにする ・配置案の振り返りを行い、改善点を小さく積み重ねる
2	避難訓練を行い、非常時に備えている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に避難訓練を行い、非常時に備えるように意識付けを行っている ・福祉避難所の場所の確認や医療的なケアが必要な利用者様のシュミレーションをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練内容を「火災」「地震」「水害」「停電」など、複数の災害パターンで実施する ・今までも消防署と連携して避難訓練なども模索中。 ・「実践の質を高める」「情報を共有しやすくする」「医療的ケア児への対応をより現実的にする」を意識する
3	「外出活動」の一環として、施設での体験や店舗での買い物、イルミネーションお観覧などを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激や興味・思い出になるような場所を外出先を選ぶようにしている ・できる限り家族などにも声掛けし参加してもらおうようにお知らせすることもある ・利用者別に活動中の様子を写真などで記録に残すようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様とご家族の思い出や刺激にもなってほしいと考えているので、参加しやすいよう事前のお知らせの強化 ・家族参加のメリット(思い出づくり・成長の共有など)を短く添えて、参加意欲を高める ・家族が参加できない場合でも、動画や写真で思い出の可視化を工夫をする

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	制度上問題ないがケアスペースが狭い	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすより大型のバギーを利用されている方が大多数 ・呼吸器・吸引機・着替え・学校の荷物など持ち物が複数。(少ない方で2個、多い方で4～5個の荷物) ・寝返りや手足の動きがある利用者様はスペースが広めに必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バギーの置き場を仮置きではなく、明確なゾーンとして固定化する ・必要に応じて、壁面フックや簡易ラックなどを使い、立てかけ収納を検討する ・バギー置き場とフロアマットの位置関係を見直し、スタッフの動線が交差しないように調整する ・利用者様の移動ルートを固定し、ぶつかりやすいポイントを減らす ・緊急時にすぐ動けるよう、避難動線を塞がない配置を徹底する
2	スタッフ全員での情報共有が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフごとに勤務時間が異なるため、当日の情報共有が難しい ・週6日営業のため、シフト調整が複雑になり、共有のタイミングが合わない ・チャットツールは導入しているが、十分に活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎを短いチェックリスト化して、漏れを防ぐ ・重要情報はチャットだけでなく、ホワイトボードや共有ノートにも残す二重化 ・チャットツールの目的を明確化 ・職員の離職を防ぐため、休憩確保・業務量調整・相談しやすい環境づくりを行う
3	基準上スタッフの配置はされているが、力が必要なケアや送迎などでスタッフが足りないことがある	<ul style="list-style-type: none"> ・基準上の配置人数では、実際のケア量に対応しきれない ・医療的ケア児への対応に必要な人数が不足している ・力が必要なケア(移乗・体位変換など)で人手が足りない ・運転スタッフの不足、医療的ケアに対応できる添乗スタッフの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見える化と優先順位付け ・送迎業務の効率化 ・ICT・記録などの効率化 ・外部資産の活用 ・職員の定着と働きやすさ